

備える 3.11から

第101回 「進化」する防災訓練

東日本大震災以降—各地で取り組んでいる 防災訓練

「助けながら避難」模索

九月一日の「防災の日」の時期に合わせ、各地で防災訓練が行われている。その内容は東日本大震災をきっかけに、様変わりした。突然、大災害が起きたとき、本気で役立つ、命が助かる方法は何か、中部、地方の各市町村や各地区の住民が、工夫を凝らしている。

阪神大震災や東日本大震災、そして広島市土砂災害を通して分るように、大災害の直後は公的機関による救助（公助）は、被害が深刻な地域はすぐ届かぬ。また、それが自己力だけで（自助）だけに行き届かなくなっている。

阪神大震災や東日本大震災、お年寄りや幼児、けが者は、全体の犠牲者を減らす有効な方法。しかし、東日本大震災では家族や知人を震災の一部で、東日本大震災の一部で、避難所では、数少ない自治体職員や教員、住民の自衛隊員や救急隊、住居の運営にかかわる「自助」を発想の根本に置く。避難所では、避難所内での役割を集中して担う。

は、どのシナリオを優先するか。避難所運営の根本に置く。避難所では、避難所内での役割を集中して担う。

避難所運営の根本に置く。避難所では、避難所内での役割を集中して担う。

避難所運営の根本に置く。避難所では、避難所内での役割を集中して担う。

どう逃げる？

平日の昼間に発生した東日本大震災では、家族の安全を確認するため自宅や学校に向かい、犠牲者になった人も多い。「災害時はご近所助け合う」ルールが地域に定着すれば、「うちの家族も避難しているはず」と信じて各自が安全な場所へ直接避難でき、犠牲者を減らすことができる。



▲中学生が近くの幼稚園児を同伴して避難 (愛知県刈谷市)



▲物干しざおと毛布だけで作った担架で人が運ぶ (愛知県豊西市)



▲リヤカーで要援護者を高台に避難 (三重県紀北町)



▼サーファーも避難訓練に参加 (三重県志摩市)

◆避難所に提供する約束をしている企業の社員兼に住民が避難 (三重県大御所町新屋田自治会)



◆集合住宅で助けが必要な人はペラペラに赤い「救助札」を見せる (愛知県春日井市)



◆本人の同意を得て事前に作った、お年寄り、障害者らの要援護者リストに基づき、民生委員らが確認 (三重県伊勢町)



◆事前に配られた「大丈夫カード」を玄関に掛けてから避難 (岐阜県可児市愛宕ヶ丘自治会)



◆避難した家は玄関にタオルを結んでおく (愛知県碧南市)



▲中学生が避難所の運営に協力 (名古屋市)



▲電気、ガスが使えない前提で、木材だけで調理 (岐阜県羽市)



▲仮設トイレの設置訓練 (岐阜県池田町)

◆避難所の周辺にペットも同伴できるスペースを確保 (長野県須坂市)



◆避難場所まで4キロの道のりを歩き一人一人の所要時間やリタイア率を確認する「本気の防災訓練」 (愛知県西尾市一色東部地区)



◆訓練の時間帯を変更 (長野県松本市)



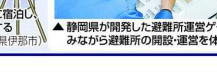
◆静岡県が開発した避難所運営ゲーム「HUG」を使い、楽しみながら避難所の開設・運営を体験 (三重県鈴鹿市天名地区)



◆希望者が避難場所に宿泊し、避難所生活を体験する「防災キャンプ」 (長野県伊那市)



◆防災訓練の効果を高めるために、個人の能力を高めることが重要 (三重県津市)



◆訓練の時間帯を変更 (長野県松本市)



◆訓練の時間帯を変更 (長野県松本市)



◆訓練の時間帯を変更 (長野県松本市)



◆訓練の時間帯を変更 (長野県松本市)